

平成 20 年度 博士前期課程学位論文要旨

学位論文題名（注：学位論文題名が欧文の場合は和訳をつけること）

地域で生活する統合失調症患者の服薬行動と服薬態度に関する検討

学位の種類： 修士（ 看護 学）

人間健康科学研究科 博士前期課程 人間健康科学専攻 看護科学 系

学修番号 07894604

氏 名：小川千恵子

（指導教員名： 山村 礎 准教授 ）

注：1,000 字程度（欧文の場合 300 ワード程度）で、本様式 1 枚（A 4 版）に収めること

目的：本研究の目的は、地域で生活する統合失調症の服薬行動と服薬に対する態度が一致しない患者に対する服薬援助のアプローチ方法を模索することを目的とし、コンプライアンスの関連要因とアドヒアランスの関連要因を検討し、コンプライアンスとアドヒアランスの関連を検討する。そしてコンプライアンスとアドヒアランスそれぞれの良好・不良で患者を 4 群に分類し、コンプライアンスとアドヒアランスに一致、不一致のみられる患者の割合を明らかにする。また 4 群で関連要因が異なるのかを基本属性および疾患・内服に関する背景を用いて検討する。アドヒアランスに影響を与える要因をコンプライアンスの良好群と不良群に分けて分析する。

方法：都内 3 箇所の精神障害者共同作業所に通所し外来通院を続けながら地域で生活する統合失調症者を対象として服薬に関する質問紙調査を実施した。コンプライアンスを Miclowitz らのコンプライアンススケールを用いて、アドヒアランスを Drug Attitude Inventory-10 を用いて測定した。他に基本属性と疾患・内服に関する背景を調査した。そしてコンプライアンスとアドヒアランスの関連が検証された。コンプライアンスの良好・不良とアドヒアランスの良好・不良を組み合わせ、コンプライアンスとアドヒアランスが一致するあるいは一致しない患者がどの程度の割合で存在しているのかを明らかにした。そしてこれら 4 群の基本属性や疾患・内服に関する背景を比較した。コンプライアンスの良好群と不良群それぞれに分けてアドヒアランスに影響を与える要因の分析を行った。

結果：分析対象数は 54 名であった。コンプライアンスとアドヒアランスに有意な関連は認められなかった。コンプライアンスの良好・不良とアドヒアランスの良好・不良を組み合わせ患者を 4 群に分類したところ、コンプライアンスとアドヒアランスに不一致のみられる患者が全体の約 4 割存在した。4 群の基本属性や疾患・服薬に関する背景に有意差は認められなかった。コンプライアンスの良好群と不良群では、アドヒアランスに影響を及ぼす要因が異なっていた。以上の結果から、アドヒアランスの向上が必ずしもコンプライアンスの向上に寄与しないことが示唆された。地域で生活する統合失調症患者の服薬継続援助において、コンプライアンスとアドヒアランスは必ずしも一致しないと認識の転換が求められる。